

会津大学 産学イノベーションセンター



■ 産学イノベーションセンター(UBIC)の概要	… P1
■ UBICの活動紹介	
(1)復興支援の取り組み	… P3
(2)各種フォーラムの開催	… P4
(3)産学連携の推進	… P5
(4)企業等との協業による教育	… P6
■ UBIC研究開発室について	… P7
■ 産学官連携コーディネーターの活動日誌	… P9
■ 共同研究・受託研究・奨学寄附金	… P11
■ 会津大学の知的財産	… P12
■ UBICのご利用案内	… P13
■ (巻末付録)会津大学復興支援センターについて	… P14

会津大学産学イノベーションセンター(UBIC)は、地域や企業に開かれた産学官連携の総合窓口として、企業や起業家からの技術相談や経営相談等に応じるとともに、企業ニーズと会津大学教員が持つ研究シーズとのコーディネートを行っています。

また、UBICでは会津大学教員の研究内容の紹介や共同研究、各種補助金に関する情報や起業化のための情報等の発信、そして産学連携フォーラムや起業家の支援、経営者育成のためのセミナー等を開催することにより、産学連携を推進しています。

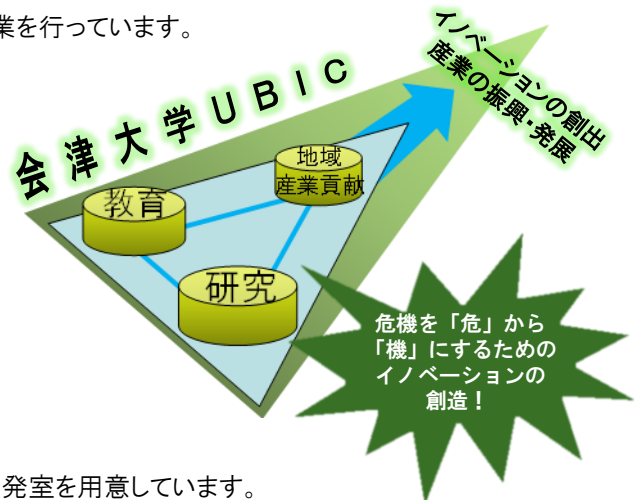
さらに、研究開発室及び先端機器等の有料開放や各種技術セミナーの開催等による産業支援に取り組んでいます。

1 イノベーションの創出

会津大学は、“to Advance Knowledge for Humanity”「人類の平和と繁栄に貢献する発明と発見の探求」をモットーに研究と教育を基盤に地域社会、産業振興への貢献を目指しています。

UBICでは、本学の研究や教育の成果を産業界にフィードバックし、大学と産業界、地域を繋ぐ窓口としてイノベーション創出、産業の活性化・発展への寄与、地域社会との協業を行っています。

また、UBICは、研究成果や人材育成を通じた活動はもとより、国内外の大学、研究機関へのネットワークを提供することによって、一大学の枠を超えた産学連携の繋ぎ“ゲートウェイ”の役割を担います。本学の研究、教育、国際ネットワークのご活用をお願い申し上げます。



2 企業支援

■研究開発

- ・会津大学教員との共同研究を支援する施設として、研究開発室を用意しています。
- ・CG製作機器、サウンド製作機器、運動解析ルーム等、先端的な設備を低料金で利用できます。
- ・スクリーンを活かした講習会やプレゼンテーションの開催、CGやサウンドの製作、加工、編集、人体の動きのCG化等に利用できます。

■講習会

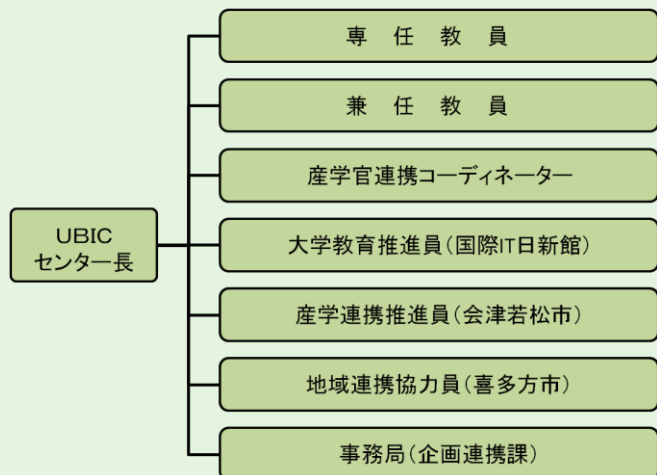
- ・新たなビジネス展開と地域産業の振興を支援するため、ITに関する各種講習会・セミナーの開催及び開催の支援を行います。

■見学・体験

- ・インターネットや3D立体映像などが無料で体験できます。
- ・UBICでは一般見学の受け入れを行っています。

センター（UBIC）の概要

組織体制



UBICセンター長の横顔

いわせ じろう
岩瀬 次郎



札幌生まれの京都市育ち。京都大学工学部大学院卒。日本IBM入社後、米国エール大学大学院へ留学、Applied Science & School Management 修了修士。
日本IBMにおいて、コンピテンシーマネジメント企画管理マネージャやソフトウェアエンジニアリングマネージャ、コンピテンシー&スキル開発マネージャを歴任。平成19年4月より会津大学理事。平成22年4月、産学イノベーションセンター長に就任。

（センター長からのメッセージ）

会津大学の特徴を活かし、福島、会津の地元の方との協業を通じて産業の活性化、地域貢献にお役に立ちたいと思っています。

3 産学官連携の推進

■研究成果の紹介

- ・産学官連携を促進するため、産学連携フォーラムを実施しています。
- ・各種展示会、フェア等に出展しています。

■研究成果の展示

- ・会津大学教員の成果や会津大学発ベンチャー企業の取り組み成果、デモを展示しています。

■相談業務

- ・相談窓口を開設し、企業や起業家からの技術相談や経営相談等に対応しています。

■共同研究・受託研究等の推進

- ・産学官連携コーディネーターを配置し、共同研究・受託研究等に結びつくコーディネート活動を行っています。

■外部資金の導入

- ・国庫等を活用した産学官連携推進事業に取り組んでいます。

■人材育成

- ・起業家支援や経営者育成を目的としてビジネスセミナーを開催しています。

■知的財産管理

- ・知的財産啓発のため、知的財産セミナーを開催しています。
- ・先行技術調査のため、科学技術に関する文献情報や特許情報を収集しています。
- ・会津大学教員の研究成果の権利化を図り、積極的な技術移転を推進しています。

(1)復興支援の取り組み

会津大学特別フォーラム

「震災時と復興にITをどう活かしていくか」

開催日：平成23年6月15日(水)

会場：会津大学 大講義室

「震災時と復興にITをどう活用するか」をテーマに、インターネットを活用した被災地に関する情報の発信・共有の事例紹介や、今後の展望について意見交換を行いました。



基調講演

『震災時におけるIT～Twitterの力～』

津田 大介氏

(メディアジャーナリスト／早稲田大学大学院政治学研究所非常勤講師)



特別講演

『震災にITをどう活かしていくか』

及川 卓也氏

(Google株) シニアエンジニアリングマネージャー



▲パネルディスカッション

【パネリスト】

- ・及川 卓也氏
- ・平田 裕一氏(会津東山温泉 向瀬 代表取締役)
- ・本田 勝之助氏(南会津食のルネッサンス 代表取締役)
- ・林 隆史(会津大学 教授)

【コーディネーター】

- ・岩瀬 次郎(会津大学理事兼UBICセンター長)



▲会場の様子

(フォーラムはUSTREAMでも配信)

会津大学復興支援フォーラム

ITとスマートコミュニティ

～再生可能エネルギーの飛躍的推進に向けて～

開催日：平成24年1月13日(金)

会場：ホテルハマツ(郡山市)

ITと再生可能エネルギーを活用した「スマートコミュニティ」をテーマに、ITによって、力強い福島県の復興の歩みを支援し、豊かでうつくしい福島県を再生していくための議論を深めました。



基調講演

『福島県をエネルギーと情報の里へ』

角山 茂章(会津大学理事長)



特別講演1

『世界の再生可能エネルギーは陸から海へ、海洋エネルギーを利用した地域復興で福島復興を！』

木下 健氏(東京大学生産技術研究所 教授)



特別講演2

『Smarter Cities～スマートな都市の実現』

吉崎 敏文氏

(日本IBM株) 執行役員 クラウド&スマーター・シティー事業担当



ラウンドセッション ▶

【プレゼンター】

- ・中村 彰二郎氏(アクセンチュア株式会社 福島イノベーションセンター長)
- ・加茂 義哉氏(日本IBM株) 公共事業 第三事業部 Smarter City推進部長)
- ・山崎 俊太郎氏(日本電気株式会社 新事業推進本部 本部長代理)
- ・山岸 憲一氏(富士通株式会社 スマートシティプロジェクト推進室長)

【コーディネーター】

- ・岩瀬 次郎(会津大学理事兼UBICセンター長)



会津大学赤ベコプログラム

被災者の方々へUBICのオフィス環境を提供しています。

- ・インターネット、パソコン、打合せ室の利用
- ・日新館ライブラリーの起業、経営に関連する図書の閲覧



▲UBICによるオフィス環境の提供

会津SLF事業(福島県重点事業「会津地域産学官連携型IT雇用創出事業」)

IT人材育成プログラムでは、IT関連産業において、業務で実際に必要となる知識・技術に的を絞り、

真に必要な部分を徹底して指導することにより短期間で即戦力となる人材育成を目指しています。

平成23年度は、UBIC講習会との共催により、基礎コースを実施しました。

※会津SLF協議会について 福島県及び会津地域自治体の協力の下、会津大学・会津大学発ベンチャー企業及び福島県内のIT関連企業が相互に連携して即戦力となる人材を育成し、人的基盤の確立による地域IT企業の競争力強化を図り、成長産業である「IT関連産業」の基幹産業への転換と会津地域の経済・雇用の活性化を目的としています。

会津SLF協議会「IT人材育成プログラム」 基礎コース受講者募集

～即戦力の人材育成と地域経済活性化を目指して～



(2) 各種フォーラムの開催

■会津IT秋フォーラム

開催日：平成23年10月14日(金)

会場：会津大学

会津大学では平成19年度より、最先端のITを会津から発信する「会津IT秋フォーラム」を開催し、ITに関わる企業人、研究者、学生が一同に集い、会津から全国へ向けて最先端のIT情報を発信しています。

5年目となる平成23年度は、『ITでつなぐ ふくしまの未来』をキャッチフレーズに、大震災からの復興をテーマの一つとして掲げ、震災時及び復興の中で、スマートグリッド、情報通信、Webテクノロジー等の最先端のITをいかに活用していくかについて、議論を深めることを目的に開催しました。



基調講演 ▶

『スマートグリッドが切り拓く新生スマートニッポン』

村上 憲郎氏 (㈱村上憲郎事務所 代表取締役/元Google㈱日本法人名誉会長)



特別講演 ▶

『東日本大震災 被害及び復旧状況と新たな災害対策』

荒木 裕二氏 (㈱NTTドコモ 東北支社長)

▼講演会場の様子



▼分科会



▼ベンチャー企業プレゼン



■産学連携フォーラム



▲ 第一部講演

「体験型視点とコミュニケーション」

(株)福島屋 会長 福島 徹氏

開催日：平成23年11月24日(木)

会場：会津大学産学イノベーションセンター

UBICでは、企業経営の向上や地域経済の活性化を目的に、地域企業や住民の方々を対象とした産学連携フォーラムを開催しています。

平成23年度は、福島県商工会連合会との共同企画により、震災復興支援という視点も加えながら、「ITを活用した起業・経営支援セミナー」を開催しました。



▲ 第二部講演

「消費者とつながるためのソーシャルメディア」

フウド(株) 代表取締役 齋藤 悠氏



◀ 第三部パネルディスカッション

「生産者と消費者をつなぐ信頼のネットワーク」

東京で福島県矢祭町の農産物を販売する『もったいない市場』を企画した鈴木正美氏(㈱でんぱた取締役)も交え、生産者と消費者の信頼関係を醸成するためにどのようなことができるかを議論しました。

(3) 産学連携の推進

■研究技術説明会

会津大学が有する研究シーズ等について、教員自らが企業の皆様を対象に、実用化を想定した技術説明を行うことにより、技術への理解を図り、企業ニーズとマッチングを図ることを目的として、研究技術説明会を開催しています。

また、これらの研究技術説明会を契機として、企業の皆様のニーズを把握し、産学官連携コーディネーターを中心に企業の要望に応じた相談を行うことで、産学官連携を推進しています。

◆会津大学ニューテクノロジーセミナー

開催日：平成23年11月15日(火)

会場：コラッセふくしま(福島市)



▲セミナー会場の様子



▲発明者(教員)による説明

◆会津大学新技術説明会

開催日：平成24年2月3日(金)

会場：JSTホール(東京・市ヶ谷)

共催：(独法)科学技術振興機構



▲説明会の様子



▲朝食を交えての意見交換会



▲会津大学生による活動報告



▲モーニングサロン発プロジェクトの打合せ風景



▲2月に開催した“イブニングサロン”の様子

■ANFモーニングサロン

会津産業ネットワークフォーラム(ANF)との共同企画で、ANFモーニングサロンを本学で開催しています。(月1回、7:30~9:00)

ANF会員企業及び会津大学教員による講演などを通じて情報交換を行い、産学官が連携していく仕組みをつくり、更には会津発ビジネスを育成することを目的としています。

平成23年度は5回開催し、ANFモーニングサロンを契機とした産学連携プロジェクトも生まれています。

■会津大学“雲”サロン

大学発ベンチャー有志の方々との協業により、会津大学近隣地域のIT企業の方々を対象として、最新のITに関する情報交換を定期的に行っています(月1回)。

会津大学“雲”サロンでは、ITに関する話題だけでなく、外部資金の話題や最近の会津大学の動きなどについても取り上げています。



◀IT企業によるプレゼンテーション

会津大学教員による取り組みの紹介 ▶



(4) 企業等との協業による教育

■国際 I T 日新館

～会津発グローバル I T リーダー育成プログラム～

会津発グローバル I T リーダー育成プログラム「国際 I T 日新館」は、平成23年10月に開始したプログラムです（平成23年9月に終了した経済産業省事業「アジア人財資金構想『国際 I T 日新館』」の自立化によるもの）。海外からの留学生を、会津大学が地元会津のベンチャー企業や国内有力企業と連携しながら、「会津の教え、企業の教え」を会得した“会津発のグローバル I T リーダー”として育成することを目指しています。

現在このプログラムには、中国、スリランカ、インド、エルサルバドル、ブルガリアからの留学生10名が参加しています。



▲留学生支援



▲入社前研修(企業の第一線で活躍している外部講師を招聘)



▲平成23年度修了式

■会津 I T 日新館

～ベンチャー体験工房～

会津大学では、地域のベンチャー企業や自治体と連携し、会津藩校日新館の精神を新しい時代に活かし、地域ニーズに対応したテーマを持つベンチャー体験工房群を構成し、イノベーションに挑戦する精神と技術力を持つ創業意識の高い若手人材育成に取り組んでいます。

平成23年度は、『ベンチャー基本コース』を12回開催し、講師陣に会津大学教員だけでなく外部講師も迎えながら、「起業ノウハウ」、「ものづくり技術・精神」、「IT応用技術」、「地域学」を柱に、タイムリーな話題を提供しました。また、『ベンチャー体験工房』では、①「ビジネスイノベーション」、②「在宅モニタリングネットワーク」、③「ヘテロなデータ・サービスを連携させる分散データストアとネットワーク」、④「安全なウェブ環境を実現するサービス」、⑤「環境情報サービス」、⑥「ソフトウェアの開発プロセスを学ぶ」のテーマに沿って、6つの工房を実施しました。



▲ベンチャー基本コース(講演会の様子)



▲ベンチャー体験工房の様子

会津大学産学イノベーションセンター(UBIC)では、ITに関する研究開発を支援する施設として、企業等の皆様に「UBIC研究開発室」を提供しています。

(※現在、募集は行っておりません。)

1 研究開発室の使用対象者

- (1) 会津大学の教員と共同でコンピュータソフトウェア又はハードウェアに関する研究開発を行う福島県内外の企業、各種団体、又は個人。
- (2) 会津大学の教員又は学生が起業した法人(設立後5年以内の法人に限る)、又は起業しようとする個人。

2 研究開発室の概要

研究開発室1		研究開発室2	研究開発室3	研究開発室4
約8.2㎡	約8.2㎡	※現在、倉庫として使用	約24㎡	約24㎡

①利用可能な設備等

- (1) 研究開発室内では、机、椅子、電気、水道、ネットワークが使用可能です。
- (2) 室内で自ら使用するコンピュータおよび周辺機器、電話等の必要な機器については、使用者側で準備してください。

②使用期間

以下の区分ごとに、毎年度更新となります。

- ①上記の使用対象者(1)に該当する場合・・・最大3年以内で更新可能
- ②上記の使用対象者(2)に該当する場合・・・最大5年以内で更新可能

③使用料（年額）

1室 420,000円（※使用期間が1年に満たない場合は月割り）

3 使用者決定の流れ

- (1) 公募開始

↓

※研究開発室の空き状況等により、公募の時期や内容が異なります。
 ※公募の際には、UBICホームページ等でお知らせします。
- (2) 使用者の選定

↓

※『会津大学産学イノベーションセンター研究開発室使用者選定基準』に基づき選考します。
- (3) 使用者決定の通知、入居手続きの開始等

現在、UBIC研究開発室に入居し、会津大学との共同研究等に取り組んでいる企業をご紹介します。

■花咲けピクチャーズ株式会社 URL <http://www.hanasake.jp/>

花咲けピクチャーズ株式会社は、WEBコンシェル開発・運用、iPhone・iPad・Android端末向けアプリケーション開発、アバター開発を行っている会社で、平成23年6月からUBIC研究開発室に入居し、会津大学との共同研究を行うなどの産学連携にも取り組んでいます。

同社が開発したファッション系ソーシャルコマース「STYLE SHARE™」が、平成23年度会津産IT技術認定の大賞を受賞しました。

この「STYLE SHARE™」は、ショッピングエンターテインメントをテーマに、コーディネートシミュレータとファッションコミュニティで構成されたファッション特化型ソーシャルコマースサービスで、WEBページに掲載されているデジタルアイテムをドラッグし、モデルにドロップするだけで自動的に全身コーディネートのシミュレーションをすることができる世界初の技術です。この技術は、既に大手アパレル企業に提供され、店頭でコーディネートの提案をするサービスも始まっています。



▲ 花咲けピクチャーズ株式会社
副社長 轟氏
(UBIC研究開発室にて)

■アクセンチュア株式会社 URL <http://www.accenture.com/jp> Email info.tokyo@accenture.com

コンサルティングやテクノロジーサービスの大手「アクセンチュア株式会社」は、平成23年7月に会津大学並びに会津若松市と三者協定を締結し、震災により避難された方々の雇用確保とその受け皿となる産業の速やかな振興、そして、原子力発電所の事故から世界に広がる風評被害について正確な情報を発信するため、8月に会津若松市に「福島イノベーションセンター」を開設しました。情報技術サービスで評価の高いアクセンチュアと市、大学の協業は、ITを活用した新たなアイデアを生み出し、地域産業のさらなる活性化と雇用の拡大に貢献することが期待されます。

同社は、平成24年2月にUBIC研究開発室にアンドロイド端末のリモートテストセンターを設置し、運用、研究活動を行っていきます。

平成23年7月26日(火)、会津大学で三者による協定締結の記者会見を開きました。菅家一郎市長(当時)、程近智社長と共に記者会見に臨んだ角山茂章学長は、「会津若松市、アクセンチュアとの連携により、社会のニーズとITが融合した教育・研究が発展し、地域産業の振興と雇用につながることを期待する」と話しました。



▲協定締結の記者会見

UBICホームページで、本杉CO(産学官連携コーディネーター)が、産学連携事業を発信中です。

「本杉COブログ」から、活動日誌の一部を抜粋してご紹介します。

◆産学官連携コーディネーターのご紹介

もとすぎ つねはる
本杉 常治



履歴:

生まれも育ちも東京向島で、隅田川で産湯をつかいました。大学院に進学して以来、世界に通じる研究者になろうと、英語で論文を書く時は George(常治を音読みするとジョージ)の名で論文を書きました。今でも英語ではGeorgeの名を使っています。

昭和49年に東京工業大学大学院博士課程を修了し、工学博士の学位を取得しました。

その年に現在のNTT研究所に就職し、約20年間、まじめな研究者として主に光ファイバ通信用半導体レーザの研究実用化に従事しました。その後、NTTの子会社に移り、手塩にかけた半導体レーザを始めとする光ファイバ通信用のハイテク部品を国内、国外に販売する業務に従事しました。

平成15年に文部科学省産学官連携コーディネータとして会津大学に派遣され、現在に至っています。

抱負:

大学には教育、基礎研究という大きな使命のほかに実用化につながる研究が求められています。しかし、私は会津大学の教員に実用化につながる研究、換言すれば、産学連携の種のための研究を強いるつもりはありません。日頃の研究成果のうちで産業が望むものがあれば産学連携の俎上に乗せる、こういう自然体で仕事をしてきました。

産学連携の最終ゴールは産業の活性化です。企業と大学との共同研究の結果、あるいは大学から企業への技術移転の結果、企業が新しい事業を始めるなどして企業が活性化することが期待されています。産業が活性化することによりその収益の一部が大学に還元され大学も潤う、これが産学連携の理想像です。この連鎖が実現すると産学連携は教育、研究とならんで大学の重要な役割の一つになります。

企業も大学も「産学連携をやって良かった」と思うような産学連携、企業も大学も産学連携によりプラスの効果を享受できる「win-winの産学連携」をコーディネートし、産学連携を会津大学経営の柱にしたいと考えています。

2011年 4月 4日 技術相談

会津地域17市町村の企業から成る会津産業ネットワークフォーラム(略称ANF)の会員企業からANFを介して技術相談がありました。

先週、ANF事務局員と企業を訪問して概略を聞かせてもらいました。相談内容は手書き図面のデジタル化です。

詳細に関しては私を経由するよりは当事者同士直接の方が良いので、企業のご担当に来学いただき、画像処理を専門とする教員と詳細打ち合わせをしてもらいました。

その結果、会津大学で予備検討を行い、その結果を見て本検討への移行を判断することとなりました。



◀ 日常の技術相談の様子

2011年 9月 12日 産学連携実務者ネットワーキング

9月9日、10日に京都の同志社大学で開催された第8回産学連携実務者ネットワーキング(UNITT 2011)に参加しました。これは産学連携実務者がいくつかのテーマについて意見交換する場です。参加者は約500名。

第7回までは東京で開催されましたが、第8回の企画中に震災が発生し、電力事情を考慮して関西での実施となったそうです。

今回は「震災復興のための産学官連携活動」と題したタイムリーな分科会が開催されました。そこでは、岩手大学、東北大学、福島大学から被災地の現状報告と復興支援への取り組み、新潟大学から新潟県中越沖地震からの復興体験談、三井物産株式会社から同社の復興支援資金援助の取り組みが紹介されました。

他の分科会でも、産学連携実務者が産学連携に関して明日からの仕事の参考となる意見交換を行いました。

ネーターの活動日誌

2011年 9月 26日 イノベーションジャパン—大学見本市

科学技術振興機構(JST)が主催する展示会で、9月21、22日に東京有楽町の国際フォーラムで開催されました。

大学の技術シーズを企業の皆様に公開し企業ニーズとのマッチングを狙ったものです。展示にはJSTの審査に合格することが必要で、今年の採択率は52%だそうです。

会場では170の大学から300のブース展示があり、2日間で6000名の入場者を数えました。



◀ 中川文部科学大臣(当時)の視察風景 (会津大学ブースにて)

来場者へ展示技術(自由視点テレビ)を説明する様子 ▶



会津大学は自由視点テレビを展示しました。既存の3次元画像は固定されたカメラの位置から撮影したものがユーザに提示されるのに対し、この自由視点テレビは、ユーザが3次元画像を見る視点を自由に選べる、というものです。すなわち、映像では障害物に隠れて見えないものを、ユーザが視点を換えることにより見る事が出来るようになります。

この展示は審査で上位にランクされたので、中川文部科学大臣(当時)の視察を受けました。

2011年 10月 31日 秋田で講演しました

10月19日秋田県総合庁舎で秋田県主催の第4回産学官連携コーディネーター会議が開催されました。会場には産学官連携事業に携わる秋田県の方々約30名が参加しました。秋田県内コーディネーターの情報交換会の後、コーディネート活動の高度化情報交換会が開かれ、3大学、2公設試から講演がありました。➡

➡ 私は『会津大学による産学連携活動事例』と題して講演しました。聴衆は会津大学発ベンチャー企業の多さに興味を引かれた様でした。

その後、場所を変え、産学官交流プラザで講演を聴講しました。新潟県工業技術総合研究所横田氏の講演は公設試の視点からの内容で、産学連携を成功させるためにはコーディネーターの立場が非常に重要である、と結論していました。

この他、新潟県の製造業を例として、産学連携の対象企業は事業所の1%程度(公設試利用の10%程度)であるという興味深い数値の紹介がありました。

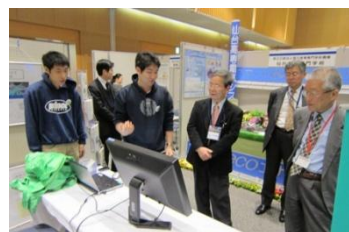
2012年 1月 24日 ふくしま産業交流フェア2012

福島市と福島新産業創造推進協議会が主催するフェアで、1月20日(金)、21日(土)の2日間、福島駅西口のコラッセふくしまで開催されました。

フェアは参加機関52、来場者数が2日間で延べ2500人の規模で、今回が第9回です。

会津大学は寺坂教授の局所気象予測を展示しました。会津大学では会津盆地の気象を250メートル間隔で予測しようとする計画が寺坂教授を中心として進行中です。これが完成すれば、明日この畑には霜が降りるが、隣の畑には降らない、という予測が出来るようになります。これは農業に従事する方々だけでなく、会津若松市民、来訪者にも有益な情報となります。

展示はその中間段階の成果で、東北地方を対象に1キロメートル間隔で48時間後までの雨、風、気温、湿度などを1時間間隔で予測したものです。気象は皆の関心事であり、分かりやすい展示内容だったので、ブースに見学に来てくれた方々の興味を引いていました。



展示技術(局所気象予測モデル)を、来場者へ説明する様子 ▶

共同研究・受託研究・奨学寄附金

共同研究

外部機関の研究者・技術者と本学の教員が共通のテーマについて研究を行う制度です。本学の産学官連携コーディネーターが、コンピュータサイエンスを専門とする教員(約110名)から、共同研究のテーマに最適な教員を選定しますのでお気軽にご相談下さい。なお、共同研究には、次の3つの形があります。

- 1 研究に要する経費を受け入れて、本学の研究者が共通の課題について共同で行う研究
- 2 共同研究員を受け入れて、本学の研究者が共通の課題について共同で行う研究
- 3 研究に要する経費と共同研究員を受け入れて、本学の研究者が共通の課題について共同で行う研究

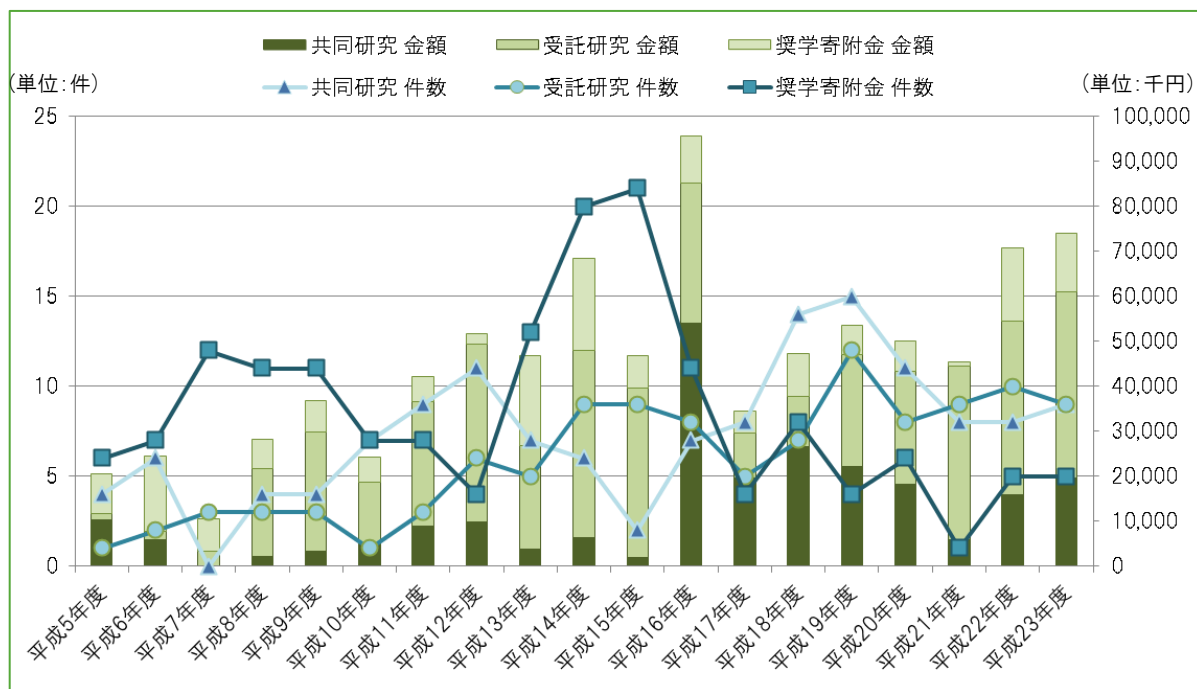
受託研究

企業などから受託を受けて行う研究制度です。これに要する経費は、委託者が負担することになります。

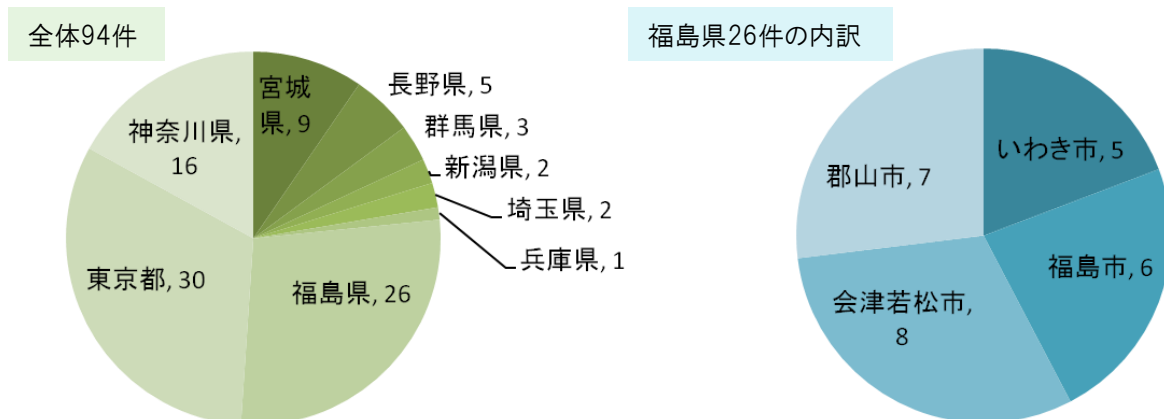
奨学寄附金

教育及び学術研究の奨励に使用されることを目的に企業等から寄附金を受ける制度です。

●会津大学における共同研究、受託研究及び奨学寄附金の受入れの推移(平成5年度～23年度)



●民間企業との共同研究、受託研究の件数(平成15年度～23年度の累積)



会津大学の知的財産

1. 特許（平成24年3月31日現在）※審査請求済み分のみ記載

	出願番号	発明の名称	特許番号	備考
1	特願2003-279445	ネットワークを介したホスト間の通信方法	特許第3905067号	(株)ニセンエックスとの共同出願
2	特願2003-432771	立体形状物の生成方法	特許第4675042号	
3	特願2004-050349	カテーテル検査シミュレーションシステム	特許第4681242号	
4	特願2004-067762	生体情報処理システム	特許第4633373号	
5	特願2004-067782	生体センサ装置	特許第4633374号	
6	特願2004-086903	インターフェース提示方法及びインターフェース提示システム	特許第4546125号	
7	特願2004-155109	カメラ制御装置	特許第4593172号	米国特許有り
8	特願2004-255617	身体状態監視装置	特許第4592360号	
9	特願2004-283213	学習支援システム及び学習支援方法	特許第4579634号	
10	特願2004-302035	心電図測定装置及び心電図測定システム	特許第4705358号	
11	特願2005-056804	編集支援プログラム、プログラム変更の支援方法、プログラム編集の支援方法 およびコンピュータ処理方法		
12	特願2005-094651	瞬時装着型電極装置	特許第4671406号	
13	特願2005-204020	自動支援システムおよび自動支援方法	特許第4832016号	
14	特願2005-291717	呼吸心拍監視装置	特許第4863047号	
15	特願2006-005599	対象物のタグ情報と位置情報とを特定するための無線ICタグ用タグ情報読み書きシステム		
16	特願2006-034343	多変数決定木構築システム、多変数決定木構築方法および多変数決定木を構築するためのプログラム		
17	特願2006-034344	多変数テスト関数生成装置、多変数テスト関数生成システム、多変数テスト関数生成方法および多変数テスト関数を生成するためのプログラム		
18	特願2006-075524	音像定位装置及び音像定位方法	特許第4689506号	(株)タムラ製作所との共同出願
19	特願2006-075525	音像定位装置及び音像定位方法	特許第4949706号	(株)タムラ製作所との共同出願
20	特願2006-337242	利用人数算出システム、利用人数算出方法および利用人数算出用プログラム	特許第4936523号	
21	特願2007-114211	月経周期推定装置および月経周期推定方法		
22	特願2008-071982	マルチメディア会議システム、アプリケーションサーバ、混合パターン決定方法および混合パターン決定用プログラム		
23	特願2008-075279	ワンタイムパスワード認証システム、ワンタイムパスワード認証方法、ワンタイムパスワード生成プログラム、ワンタイムパスワード認証プログラムおよびワンタイムパスワード生成装置		
24	特願2008-230593	センサ装置、センシング情報収集システム、センシング機能代替方法およびセンシング機能代替プログラム		
25	特願2009-005682	画像パターンマッチング装置、画像パターンマッチング方法および画像パターンマッチング用プログラム		
26	特願2009-094620	アレイプロセッサ		

2. 意匠（平成24年3月31日現在）

	出願番号	意匠に係る物品	登録番号		出願番号	意匠に係る物品	登録番号
1	意願2009-012756	意匠(置物)「張」	登録第1381976号	13	意願2010-008833	意匠(装身具)「陳」	登録第1407378号
2	意願2009-012757	意匠(置物)「福」	登録第1381977号	14	意願2010-008834	意匠(装身具)「王」	登録第1407379号
3	意願2009-012758	意匠(置物)「金」	登録第1381978号	15	意願2010-008835	意匠(置物)「黄」	登録第1410204号
4	意願2009-012759	意匠(置物)「寿」	登録第1381979号	16	意願2010-008836	意匠(置物)「呉」	登録第1410205号
5	意願2009-012760	意匠(置物)「囀」	登録第1381980号	17	意願2010-008837	意匠(置物)「馬」	登録第1410206号
6	意願2010-008826	意匠(装身具)「黄」	登録第1407371号	18	意願2010-008838	意匠(置物)「何」	登録第1410207号
7	意願2010-008827	意匠(装身具)「呉」	登録第1407372号	19	意願2010-008839	意匠(置物)「温」	登録第1410208号
8	意願2010-008828	意匠(装身具)「馬」	登録第1407373号	20	意願2010-008840	意匠(置物)「壽」	登録第1410209号
9	意願2010-008829	意匠(装身具)「何」	登録第1407374号	21	意願2010-008841	意匠(置物)「高」	登録第1410210号
10	意願2010-008830	意匠(装身具)「温」	登録第1407375号	22	意願2010-008842	意匠(置物)「陳」	登録第1410211号
11	意願2010-008831	意匠(装身具)「壽」	登録第1407376号	23	意願2010-008843	意匠(置物)「王」	登録第1410212号
12	意願2010-008832	意匠(装身具)「高」	登録第1407377号				

UBICのご利用案内

- 開館時間 午前8時30分～午後5時
- 休館日 土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始
- 申込方法 事前申込制。
※使用する施設・システムの空き状況については、電話、Eメール等によりお問い合わせください。
※申請書の様式はUBICホームページからダウンロードできます。



3Dシアター

使用料 21,000円/1回
(50人程度入場可能)

高輝度高精細液晶プロジェクタ、200インチスクリーン及び10台のスピーカーを使った映画鑑賞やセミナーの開催、その他プレゼンテーションの場としてご利用いただけます。また、立体映像と立体音響効果による会津大学教員の研究成果紹介も行っています。



セミナールーム

使用料 21,000円/1回

20台のパソコンと50インチ・プラズマディスプレイ3台により、インターネット・プログラミング・CG・ホームページ作成・イントラネット・MS Office等の各種講習会を開催できます。また、UBIC主催の講習会も開催しています。



サウンドクリエーションルーム

使用料 1,050円/1回

コンピュータを使って作曲、録音、編集ができ、作品をサウンドファイルやDAT、CD-Rに保存できます。マルチメディア・コンテンツに必要な音響を制作したり、オリジナルCDを作成できます。



オーサリングルーム

使用料 270円/1システム1時間

3DCG制作、2DCG制作、ノンリニア編集、DVDオーサリング、アニメーション制作、DV編集、モーションキャプチャデータの3DCG化が可能です。



運動解析ルーム

使用料 15,750円/1回

コンピュータに人間の動きをデータとして取り込むことができ、スポーツ技術の向上やリハビリ器具の開発、伝統芸能の保存などにご利用いただけます。また、オーサリングシステムでモーションキャプチャデータの3DCG化ができ、リアルな動きをつけたアニメーション等の制作もできます。



研究開発室

使用料 420,000円/1室1年

産学連携の拠点として、研究開発室が5室(うち2室は分割スペース)用意されています。コンピュータソフトウェア又はハードウェアに関する研究開発を行う福島県内外の企業、各種団体、個人、または大学発ベンチャーが、充実した環境の中で、研究開発を行うことができます。(※詳細はP7をご覧ください。)



オープンスペース

使用料 無料

会議用の机、椅子、プロジェクタを設置しています。無料で開放していますので、ミーティング等でお気軽にご利用いただけます。



体験コーナー

使用料 無料

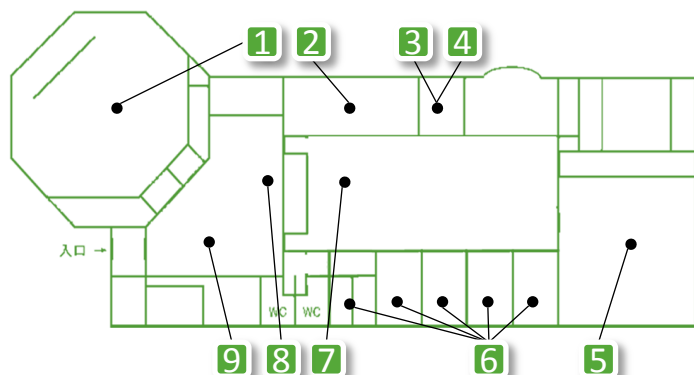
インターネットが利用できるパソコンを4台設置しています。また、会津大学発ベンチャー企業の技術を紹介する展示も行っています。



エントランスホール

使用料 無料

技術相談や共同研究の打合せ、あるいは情報交換や休憩等にご利用いただけます。ビジネス書を中心とした約300冊の蔵書を自由に閲覧することのできるスペース(会津IT日新館ライブラリー)があります。



※使用単位中「1回」とあるのは、次に掲げる時間です。
(1)8:30～12:30 (2)13:00～17:00

－ 会津から、復興への力強い第一歩を －

会津大学は、東日本大震災からの確実な復興を支援することを目的に、ITの専門大学である本学の特徴を活かし、「会津大学復興支援センター（仮称）」を設置します。

IT関連企業や会津大学発ベンチャー企業等と連携しながら、本学の特徴である「先進ICT研究」「IT人材育成」「産学連携」「国際性」を活かした復興関連事業を積極的に推進していきます。会津地域はもとより県内へのIT関連企業の集積を促し、IT人材の育成や新たな産業創出に向けた取り組みを進め雇用拡大を目指していくことで、東日本大震災からの復興支援に取り組んでいきます。

（平成24年1月6日記者発表）



復興支援センター構想の
記者発表の様子



岩瀬理事兼UBICセンター長
による説明

連 携 企 業

- アクセンチュア株式会社
- 日本電気株式会社
- 東日本電信電話株式会社
- 富士通株式会社
- 会津S L F協議会会員企業

事 業 の 概 要

- 県民健康調査等に対するITの観点からの全面的支援
- 実践的IT人材の育成と雇用創出
- 先端ITの研究による新たな産業の創出
- 教育・研究活動を通じた復興への支援と学生の参加
- 国際性を活かした復興支援活動

■ アクセンチュア株式会社と連携協力基本協定を締結（平成23年7月26日）

会津大学とアクセンチュアは、東日本大震災からの復興を支援し、地域経済社会の再構築と福島県域を起点とした日本の産業活性化に貢献するため、学術、産業復興、人材育成の分野で連携協力することを目的とした基本協定を締結しました。現在、アクセンチュアは、会津若松市に「福島イノベーションセンター」を設立し、地域に密着した活動を展開しています。

■ 日本電気株式会社と連携協力基本協定を締結（平成24年3月5日）

会津大学とNECは、東日本大震災からの復興の歩みの中で、地域経済社会の再構築と福島県を起点とした日本の産業活性化の進展に貢献するため、学術、産業振興、人材育成分野で連携・協力していくことを目的に基本協定を締結しました。福島、そして日本の復興と災害に強い安心・安全な街づくりに寄与していきます。

■ 富士通株式会社と連携協力基本協定を締結（平成24年4月10日）

会津大学と富士通は、東日本大震災からの力強い復興を支援するために連携協力していくことを目的に、基本協定を締結しました。4月から、イノベーションを促進するIT人材の育成として「サービス・サイエンス」講座を開設するとともに、クラウドセンター活用などIT分野で連携を進めながらイノベーションを促進していきます。

会津大学は、「会津大学復興支援センター」を核として、企業との協業により東日本大震災からの復興支援に取り組んでいきます。

UBICインフォメーション

◆ 産学イノベーションセンター講習会

UBICでは、産業の振興、学術文化の向上など、会津大学がめざす地域活性化への貢献策の一環として、マルチメディア・コンテンツの制作・編集等のための講習会を開催しています。（※平成24年度開催分は、決まり次第、HP等で随時お知らせします。）

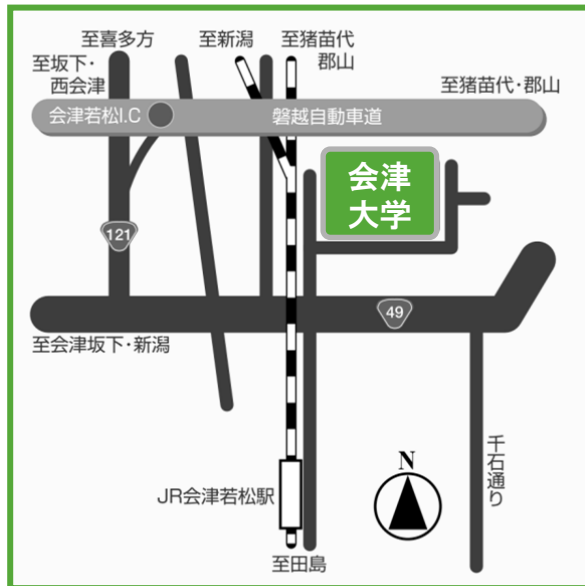
◆ メーリングリストの登録

UBIC各種講習会への参加・応募を希望される方は、住所・氏名・電話番号・Eメールアドレスを明記のうえ、FAX、Eメール等でご連絡ください。メーリングリストに登録のうえ、詳細情報が決まり次第ご案内いたします。なお、メーリングリストへはUBICホームページからも登録できます。

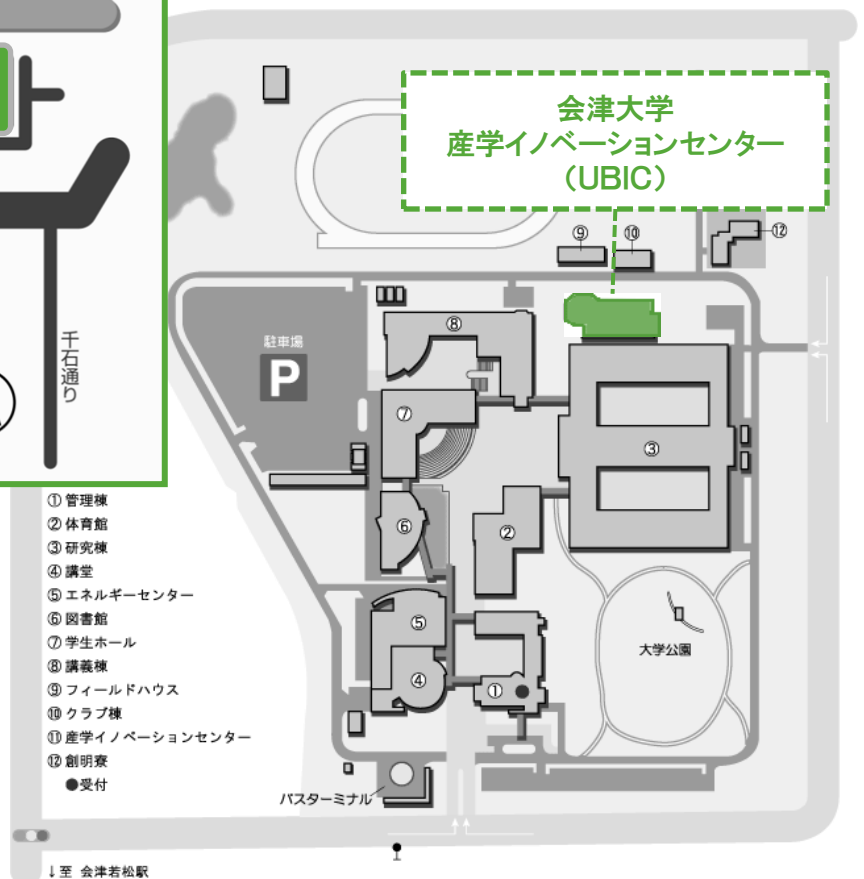
◆ 会津大学シーズ集

UBICでは、本学と産業界等との連携をより一層推進していくため、本学研究者の研究内容を広く一般に紹介するシーズ集を作成しています。産学イノベーションセンターホームページへアクセスしてご覧ください。

◆ アクセス



<キャンパスマップ>



会津大学産学イノベーションセンター(UBIC)

〒965-8580 福島県会津若松市一箕町大字鶴賀字上居合90

電話：0242-37-2776

FAX：0242-37-2778

Eメール：ubic-adm@ubic-u-aizu.jp

ホームページ：http://www.ubic-u-aizu.jp/